

連続講座報告

連続講座

日米安保最前線どこまで進む軍備拡大・同盟強化

第1回

おかしいでしょ、9条があってこの軍拡 杉原浩司さん（武器輸出反対ネットワーク）

不戦へのネットワークは連続講座「日米安保最前線 どこまで進む軍備拡大・同盟強化」を企画しています。第一回は「おかしいでしょ、9条があってこの軍拡」というタイトルで杉原浩司さん（武器輸出反対ネットワークNAJAT）に軍拡状況全般についてお話ししていただきました。

講演はYouTubeにあげてあります。

(<https://youtu.be/tRcPwsrjmc>)

以下にお話しを要約します。

軍事予算について

2018年度軍事予算は5兆1911億円+2345億円=5兆3596億円で6年連続過去最高を更新している。大軍拡予算になっている。

調達の問題点

OFMS（有償軍事援助）という米国軍産複体によるポッタクリビジネス（言い値、部品が届かない、見積もりより価格が上がるなど）による調達が増えている。（日本が支払った前払金の未清算額が昨年度末で1000億円を超えている！）

○後年度負担というローン払いが増えている。18年度予算では17年度以前の契約に基づく後払いが1兆7590億円もある。

武器のなかみ・質の問題点

○ミサイル防衛。そもそもミサイル防衛とは先制攻撃をやりやすくするためのもの。反撃されないと人々に信じこませるためのシステムです。

○イージスアショア

1機1000億円で2機予定（金額は2機で5000億円ぐらいに上がる可能性がある）。アメリカのミサイル防衛網にくみこまれており、「日本の防衛」のためだけではない。ハワイとグアムにむけたミサイルが対象で、そのため秋田市と萩市に予定されている。重要な問題点は、レーダーから強烈な電磁波が

出る。秋田は演習場から住宅地が近い。

敵基地攻撃兵器

○日本版トマホーク・巡行ミサイルの研究費の計上、3種類の長距離巡行ミサイル（射程500km、900km）の購入。これは「専守防衛」を逸脱。攻撃的武器を持つことで戦力統制という9条2項の意味がなくなり、際限のない軍拡が始まる。

○攻撃型空母の保有に向け「新種航空機の運用」の調査研究。（「いずも」などの甲板を改修し、F35Bを艦載するなど。）それを南西諸島で運用。

① 統合防衛戦略（陸海空3自衛隊を一体的に運用するための指針）

② 防衛大綱

③ 中期防衛力整備計画

④ 国家安全保障戦略

安倍政権はこの4つの文書を年内策定する。

また、自衛隊の部隊の再編制がすすめられ、陸上総隊発足。水陸機動団（日本版海兵隊）が創設された。

以上のように杉原さんは現在の軍拡状況を説明され、ではわれわれはどうするのか？という質問を提起された。「専守防衛」というのは欺瞞的である、たとえば横須賀には11隻の米イージス艦がおり、それぞれが100発の巡航ミサイルを持っている現実がある。私達には、加害の武力への自覚が必要である。在日米軍にもタガをはめなければならない、地位協定も変えなければいけない。「専守防衛」や「非核3原則」というのは疑わなければならない。また、米朝会談など「東アジアに平和の気運」があるので、日本の市民としても平和協定をつくらせるという要求が必要。

最後に、市民と立憲野党が協力して新防衛大綱、国家安全保障戦略に対抗して、「東アジアの安全保障をどうするのか」というロードマップづくりが必要としめくられました。

大変内容豊富な講演で勉強になりました。



第2回

極東最大級化した米軍岩国基地・岩国から

田村順玄さん（岩国市議、リムピース運営委員、ピースリンク広島・呉・岩国共同代表）

連続講座の第2回目は岩国の田村順玄さんにお願
いしました。田村さんの講演もY o u t u b eにあ
げてあります。

(<https://youtu.be/GqMm9u6O5Zs>)

田村さんは岩国市議としては今回で身を引くが、
今後とも岩国基地の語り部としての仕事は続けてい
くという決意を冒頭述べられました。

田村さんは岩国の情報はメディアにはあまり載る
ことがないとされながら、現状を語られました。

今年3月に厚木基地から空母艦載機61機が移駐
してきた。2006年、当時の井原勝介市長が艦載
機移駐反対という姿勢をしめし、住民投票を行った
結果、圧倒的な市民が反対して民意をしめしたが、
沖縄と同じように政府はごり押ししてすすめてきた。
岩国は本州でたった一つの海兵隊基地であり、F3
5Bステルス戦闘機、オスプレイなどが配備されて
いた海兵隊基地であったのが、今は「米海兵隊岩国
航空基地・米海軍基地」となった。米軍機だけで1
20機をこえる飛行機があり、嘉手納をしのいでい
る。2600メートルの滑走路1本を使って、F1
8ホーネットやF35B、スーパーホーネット、E
2D、C2などがある。オスプレイは毎日のように
沖縄からやってきて、岩国を中継して横田などへ行
く。

着艦訓練の騒音軽減などのため、市民の「悲願」
として滑走路を1000メートル沖合へ移設する事
業を2500億円かけてすすめてきた。そして、米
軍再編のなかで、厚木の艦載機部隊を岩国にもって
くることになり、この3月に61機移駐してきた。
海上自衛隊40機も同居している。

艦載機移駐で、一年中爆音が響く基地となってし
まったので、今、爆音に反対する署名を始め、7月
1日には「決起集会」を予定しているとのこと。

滑走路の沖合移設工事のため、愛宕山（標高12
0m）を55mまで切りさいて、その土をベルトコ

ンベアーで海岸線までもっていき滑走路をつくと
いう工事がすすめられた。当初の「計画」では、削
った愛宕山には団地をつくり、5600人の町をつ
くるはずであったが、赤字になるからと中止して、
結局、空母艦載機の米兵家族の住宅をつくることにな
った！ 住民はそれに対して署名を11万筆集め
て反対した。その結果なのか、住宅は将校のための
262戸の住宅（愛宕ヒルズ）へと変更され（実際
は40世帯しか入居していない）、米兵のための福利
厚生施設もでき、（アメとムチ政策で）住民も利用で
きるようになった、とのこと。

田村さんは、基地内の管制塔にのぼらせてくれる
という機会があったので、管制塔にのぼり、そこ
から基地内を見たら、各飛行機部隊が整然と「田の字」
のように配置された状況が確認できた。こうした基
地内のようなすを見たことで、この基地が20年、3
0年前から日米政府によって計画的につくられた基
地であることが確認でき、米軍のこの基地を徹底的
に利用してやろうという意志も実感できた、とされ
ました。

田村さんのお話を聞いて感じたのは、日米両政
府が周到に計画し、住民感情をあらゆる手で誘導し、
極東最大級の基地ができてしまったという事実です。
これから岩国市民への負担が重くのしかかっていく
ことが心配されます。



連続講座、次回は三沢基地です。